

2022年3月15日～12日

自民党第89回党大会など

参院選、6月22日公示の見通し...自民が党大会「自公連携のもと勝利を」

読売新聞 2022/03/13 12:47



自民党大会で参院選に向けて必勝コールをする岸田首相（中央）ら（13日午前11時54分、東京都港区）＝源幸正倫撮影

自民党は13日、東京都内のホテルで定期党大会を開いた。岸田首相（党総裁）は演説で、夏の参院選について「自公の連携のもと勝利し、引き続き政治の安定を担っていこう」と呼びかけた。茂木幹事長は、参院選が6月22日に公示されるとの見通しを明らかにした。



自民党大会で演説する岸田首相（13日、東京都港区）＝源幸正倫撮影

首相は、ウクライナ情勢などを踏まえ、「これだけの歴史を画するような国家課題に直面するとき、自民党、公明党の連立与党以外にこの国を任せることができないわけがない」と強調した。

新型コロナウイルス対策については、「感染拡大防止を徹底しながら、出口に向けて動きを進めていく」と語った。

憲法改正では、「一人ひとりが国民としっかりと対話し、憲法改正という党是を成し遂げよう」と訴えた。



自民党大会で来賓のあいさつをする公明党の山口代表（13日、東京都港区）＝源幸正倫撮影

来賓として出席した公明党の山口代表は、「結束の土俵が整った」と述べ、参院選で選挙区ごとの選挙協力に全力を挙げる考えを示した。

茂木幹事長は党務について報告し、参院選の公示日について「6月22日」と明らかにした。参院選は、「6月22日公示—7月10日投開票」の日程で行われる見通しだ。参院選の選挙期間は通例17日間だが、6月23日は沖縄の「慰霊の日」と重なるため、配慮したとみられる。

党大会では、幹事長など8ポストの1年の任期を「連続3期まで」に制限する規定を盛り込んだ党則改正を正式決定した。党役員の任期は、現在の党則では総裁は3年、役員は1年で、任期3年の総裁のみ「連続3期」に制限されていた。2022年の運動方針も採択した。

岸田首相「日常を取り戻す」 コロナ禍からの出口戦略に意欲  
毎日新聞 2022/3/13 12:54（最終更新 3/13 15:00）



自民党大会の最後に必勝コールで氣勢を上げる岸田文雄首相（中央）と党幹部ら＝東京都港区で2022年3月13日午前11時54分、手塚耕一郎撮影

自民党は13日、第89回党大会を東京都内のホテルで開催した。岸田文雄首相（党総裁）は演説で、新型コロナウイルスへの対応について「いざというときの備えを万全にし、経済・社会を動かすことで日常を取り戻すことができるよう歩みを着実に進める」と述べ、感染防止と経済を両立させる出口戦略に取り組む考えを示した。ロシアのウクライナへの侵攻を受け、国連安全保障理事会改革に取り組む姿勢を表明した。

首相は、現在の感染状況について「落ち着きを見せている」と指摘。「出口に向けて動きを進めていく。恐れているは『ウィズコロナ』の日常を切り開くことは不可能だ」として、再び感染が拡大しても対応できるよう、検査キットやワクチンの確保など「万全のバックアップ体制を整え、維持する」と主張した。そのうえで、原油や食材価格高騰への対応、賃上げ、子育て世代への支援、先端技術への投資などの成長戦略で日本経済の回復に取り組む考えを示した。

ロシアによるウクライナへの侵攻については「国際社会とともに強い制裁を科すことで、こうした暴挙には高い代償が伴うことを示す」と改めて非難した。「国際社会の平和と安定に大きな責任を持つ国連安保理の常任理事国であるロシアの暴挙は、新たな国際秩序の枠組みの必要性を示している」とも指摘し、国連安保理改革の実現に取り組む姿勢を示した。加えて、日本の防衛体制の見直しと日米同盟のさらなる強化を挙げ、「いかなる事態が起きても国民生活を守り抜く」と訴えた。

憲法改正に向け「国民としっかりと対話し、党是を成し遂げる」と述べた。

夏の参院選については、これらの課題に取り組むための「力を得る戦い」と位置づけた。「気を緩めることなく一致団結して勝ち抜こう。歴史を画する国家課題に直面するとき、自民、公明の連立与党以外にこの国を任せるとはできない」と呼びかけた。

来賓として出席した公明党の山口那津男代表は、参院選に向けた自公の選挙協力について「協力のあり方についてしっかり間を詰め、実のある体制を作っていかなければならない」と強調した。

党大会では、参院選の必勝に向けて連合などの政策懇談を推進する方針や「新しい資本主義」による日本経済再生、早期の憲法改正実現などを盛り込んだ2022年運動方針を採択。党総裁以外の役員任期を「1期1年、連続3期まで」に制限し、党運営の指針となる「ガバナンスコード」を定めるための党則改正を了承した。【高橋恵子】

首相、参院選「自公で勝利し政治の安定を」 自民党大会  
日経新聞 2022年3月13日 13:10



自民党大会で参院選に向け氣勢を上げる

岸田首相ら（13日、東京都港区）

自民党は13日、都内のホテルで党大会を開いた。岸田文雄首相（党総裁）は参院選について「自民、公明両党の連携のもと勝利し引き続き政治の安定を担っていこう」と述べた。「気を緩めることなく一致団結し勝ち抜こう」と呼びかけた。

ロシアによるウクライナ侵攻を「暴挙」と非難し対ロ制裁や国連安全保障理事会の改革に取り組むと表明した。新型コロナウイルス禍への対応にも触れ「大きな歴史的な変化に立ち向かう。そのための力を得る戦いが参院選だ」と強調した。

来賓で出席した公明党の山口那津男代表は参院選での選挙協力に関し「結束の土俵は整った。互いに協力の中身のある歩みをしっかり進めたい」と語った。自公は11日、参院選での相互推薦について基本的に合意した。

茂木敏充幹事長は参院選の日程を巡り、公示日が6月22日になるとの見通しを示した。今国会の会期延長がなければ投票日は7月10日の見込みだ。

首相は憲法改正にも言及した。9条への自衛隊の明記など党が掲げる4項目は「今こそ取り組まなければならない課題だ」と訴えた。「改憲という党是をなし遂げよう」と力説した。

党大会は党則改正を了承した。1期1年の役員任期を連続3期までと定め、総裁以外の任期を事実上3年に制限した。幹事長や政調会長など党7役と副総裁を対象とする。権限の集中を抑える党改革の柱に位置づける。

茂木氏は「起爆剤としてさらに改革を加速し『自民党は変わった』『進化している』という姿を国民に示していく」と主張した。

2022年の党運動方針も決めた。立憲民主党などの支持団体である連合に対し「政策懇談を積極的に進める」と明記した。

自民党は連合が支援する国民民主党に政策協議を通じて接近する。参院選での野党間の選挙協力にくさびを打つ狙いがある。

### 首相、改憲実現へ参院選勝利強調 世論喚起は道半ば

産経新聞 2022/3/13 13:08 田中 一世

自民党総裁の岸田文雄首相は13日の党大会演説で、重要課題としてウクライナ情勢への対応などとともに憲法改正を挙げ「こうした歴史的な変化に立ち向かっていくための力を得る戦いが参院選だ」と強調した。参院選で改憲を争点化して勝利し、議論加速化のエンジンにしたい考えだが、世論喚起はまだ道半ばだ。

首相演説では「われわれ一人一人が国民としっかり対話し、憲法改正という党是を成し遂げよう」とも訴えた。党大会で採択した令和4年党運動方針では、すべての都道府県連が「憲法改正実現本部」を必ず設置し、「研修会・対話集会などを活発に展開」することを求めた。党本部が地方組織の活動を支援する。

運動方針には「早期の憲法改正を目指す」とも記したが、時期は明示しなかった。ゴールを決めると立憲民主党などが反発するという理由もあるが、まだ先が見通せない現実もある。今国会、改憲議論をめぐる状況は改善した。衆院憲法審がほぼ毎週開催され、「緊急事態の国会議員任期延長」が有力テーマに浮上した。とはいえ、議論具体化の兆しが見えたばかりで、世論もまだ不十分といえる。

自民は2月6日、世論を盛り上げる運動の第一弾として岐阜市内で憲法集会を開催した。その後も各地で毎週末開かれているが、

新型コロナウイルス感染拡大を受けた蔓延(まんえん)防止等重点措置適用の影響で頻度は当初の想定より少ない。

地方には国会議員の本気度を疑う声もある。千葉県議の河上茂県連幹事長は12日の全国幹事長会議後、記者団に「党本部はわれわれに『憲法改正』と言ってくるが、選挙間近になると国会議員から憲法改正の話が消える。その話をすると落選してしまうと感じているのではないかと語った。ウクライナ情勢などに世論の関心が向く中、参院選で改憲を争点化できるのか正念場を迎えている。(田中一世)

### 岸田首相「一致団結して勝利を」 自民党大会で参院選勝利呼びかけ

産経新聞 2022/3/13 12:55

岸田文雄首相（自民党総裁）は13日、東京都内で開かれた党大会で演説し、夏の参院選について「大きな歴史的な変化に立ち向かっていくための力を得る戦いだ。気を緩めることなく、一致団結して勝ち抜こう」と呼びかけた。

首相は「友党・公明党とともに20年間、日本の政治の安定を導いてきた」と強調。「自公の連携の下で勝利し、引き続き政治の安定を担おう」と語った。「日本が変わらなければならない今こそ、自民党が自ら変わることを示し、国民の信頼を確たるものにしよう」と訴えた。

また、首相は国連安全保障理事会の常任理事国であるロシアのウクライナ侵攻を「暴挙」と非難し、国連や安保理改革の実現に意欲を示した。「ロシアの暴挙は新たな国際秩序の枠組みの必要性を示している。岸田政権の下、改革の実現に全力を挙げる」と表明した。エネルギーの供給確保のために「資源外交を積極的に展開し、中東産油国へ働きかける」とも述べた。

一方、憲法改正では、党が掲げる改憲案4項目に関し「今こそ取り組まなければならない課題だ。国民としっかり対話し、改憲の党是を成し遂げよう」と強調した。

党大会には公明党の山口那津男代表も来賓として出席し、夏の参院選に向けた自公の選挙協力に関し「両党の結束の土俵は整った。互いに協力の中身のある歩みをしっかり進めたい」と語った。党大会では令和4年運動方針を採択した。同方針では党勢拡大に向け「連合との政策懇談を積極的に進める」と表明。憲法改正では「憲法審査会を安定的に開催し、積極的に議論する」と明記した。また、総裁以外の役員任期を1期1年、連続3期までに制限する党則改正も正式決定した。

### 強まる保守色、薄れる「岸田カラー」 自民党大会で「防衛力強化」「改憲」強調

東京新聞 2022年3月15日 06時00分



自民党大会で演説する岸田首相

岸田政権の発足後、初の開催となった13日の自民党大会。ハト派を自任してきた岸田文雄首相（党総裁）が演説で強調したのは、ウクライナ危機を受けた日本の防衛力強化や、安倍政権下で

党がまとめた憲法9条への自衛隊明記を含む「改憲4項目」の実現という保守色の強い政策だった。森友・加計学園問題などで損なわれた政治への信頼回復にも触れずじまい。「岸田カラー」は影を潜め、政権運営の安定へ基盤を固めたい思惑が透けて見えた。(佐藤裕介、村上一樹)

#### ◆「新自由主義的政策の転換」の表現消える

首相は演説の終盤で「わが党が示す4項目は、いずれも今こそ取り組まなければならない課題だ。憲法改正という党是を成し遂げよう」と呼びかけた。

党大会で決定した運動方針では、改憲の項目は新型コロナウイルス対応を上回る分量。「早期の実現」を掲げ「国民の理解を得つつ、憲法改正原案の国会発議を目指す」と明記した。

池田勇元首相以来のハト派の派閥「宏池会」を率い、穏健派として知られた首相だが、防衛力強化も真っ先に取り上げ、外交・安全保障政策の長期指針「国家安全保障戦略」など3文書の見直しを進める考えを重ねて示した。

首相の演説には、随所に最大派閥の会長を務める安倍晋三元首相ら保守派への配慮がにじんだ。

自らが掲げる「新しい資本主義」に関連し、安倍氏が進めた経済政策アベノミクスを「もはやデフレではないという状況にまで来ることができた」と持ち上げた。昨年の総裁選などで、安倍・菅両政権の経済政策との違いとして強調していた「新自由主義的な政策を転換」との表現も消えた。

#### ◆安倍・菅両政権「負の遺産」には言及せず



自民党大会で氣勢を上げる岸田首相

(中央)ら

首相は改革姿勢をアピールしようと、総裁選で約束した党役員の任期制を決定したことを挙げ「自民党が自ら変わることを示し、信頼を確たるものにする」と胸を張った。だが安倍・菅両政権の「負の遺産」に言及することはなかった。

安倍政権では森友・加計学園や「桜を見る会」の問題が表面化し、公文書改ざんや政治の私物化疑惑が次々と浮上。閣僚経験者らの「政治とカネ」の問題も相次ぎ、2019年の参院選広島選挙区を舞台にした買収事件では、河井克行元法相の実刑、妻案里氏の有罪がそれぞれ確定しているが、反省の弁や国民への謝罪の言葉はなかった。

新型コロナへの対応では、3回目のワクチン接種は計画通りに進まなかったが、演説では後手に回ったことへの説明は素通りした。繰り返し訴えていた「最悪を想定」の言葉はなく、いまだに高齢者を中心に死者数が高止まりしているにもかかわらず「出口に向けて動きを進めて行く」と明言。経済を優先し、世論の離反を招いた菅義偉前首相の姿勢との違いは見えにくくなった。

演説と運動方針では、連立を組む公明党との連携や、立憲民主党を支援する連合との関係強化も打ち出した。すべてが夏の参院選を意識した動きであることは間違いないが、各方面に手を伸ばすほど首相の独自色は薄まることになる。

## 自民党大会、運動方針に「連合と積極的に政策懇談」明記 岸田首相は改憲に意欲

東京新聞 2022年3月14日 19時41分



自民党大会で氣勢を上げる岸田首相

(中央)ら＝東京都内のホテルで

自民党は13日、東京都内のホテルで党大会を開き、非自民勢力を支援してきた連合との関係強化を盛り込んだ2022年の党運動方針を採択した。党総裁の岸田文雄首相は今夏の参院選について「自民、公明両党の連携の下、勝利し、引き続き政治の安定を担っていこう」と述べた。

党運動方針には「連合並びに友好的な労働組合との政策懇談を積極的に進める」と「連合」を明記。22年度予算案の衆院採決で賛成した国民民主党と関係の深い労組などとの連携に前向きな姿勢を打ち出した。

首相は、新型コロナウイルス対応に関して「備えを万全にした上で、経済、社会を動かし、日常を取り戻すことができるよう歩みを着実に進めていく」と説明。ロシアのウクライナ侵攻は「暴挙には高い代償が伴うことを示す」と非難し、日米同盟の強化や国連安全保障理事会の改革に取り組む考えを示した。憲法9条への自衛隊明記など自民の改憲4項目の実現への意欲も強調した。

党大会では総裁以外の役員任期を1期1年、連続3期までに制限する党則改正を正式決定した。幹事長ら党役員の任期制限は昨年の総裁選で首相が公約に掲げていた。(佐藤裕介)

しんぶん赤旗 2022年3月15日(火)

### 首相、危機逆手に改憲狙う 自民党大会 参院選で加速へ執念

自民党は13日、定期党大会を東京都内のホテルで開きました。岸田文雄首相(党総裁)は、自衛隊明記の9条改憲を含む自民党の「改憲4項目」を「今こそ取り組まなければならない課題だ」と述べ、「憲法改正という党是を成し遂げよう」と呼びかけました。また、そのための「力」を得るたまたかいが参院選だとし、参院選に勝利して一気に改憲を加速させる執念を示しました。

岸田首相はさらに、ロシアのウクライナ侵略を「暴挙」と批判するとともに「今回の暴挙をわが事として捉え、対応していかなければならない」と述べ、「防衛体制の見直し及び強化」「日米同盟のさらなる強化」などに全力を挙げると強調。ウクライナ危機を軍事同盟強化の“好機”とする姿勢をあらわにしました。

党大会では、各都道府県での対話集会や街頭演説を通じて改憲の「早期の実現を目指す」とした22年の運動方針を採択しました。

しんぶん赤旗 2022年3月15日(火)

### 改憲へ攻勢かける自民 参院選 日本の行方を左右

岸田文雄首相は13日の自民党大会で、ロシアのウクライナ侵略を「欧州のみならずアジアを含む世界の秩序・平和に対する挑戦であり、わが事として捉え」対応すると主張しました。しかし、武力行使の禁止を掲げる国連憲章違反の指摘も、国連総会で圧倒

的多数で採択されたロシア非難決議への連帯の表明はなく、強調したのは、防衛体制の見直し強化と日米同盟のさらなる強化です。

特に日米同盟をめぐっては「ロシアの暴挙は我々に同盟関係の重要性を再認識させた」とし、「わが国、アジア、そして国際社会の平和と安定の礎として日米同盟をさらに強固にしていく」と日米同盟を天まで持ち上げました。「軍事同盟を国際社会の安定の礎とする」という主張は、軍事には軍事でという「力の論理」で国連憲章の根本理念の否定に行き着くものです。

一方、岸田首相は、自衛隊明記の憲法9条改憲を含む自民党の「改憲4項目」を課題として「改憲」をなしとげようと呼びかけました。9条は再び侵略国家にならないという誓いと、世界平和の先駆けとなる決意を込め、戦争を起こさないための平和外交を政府の責務とするものです。その現実的展開こそが急務となっているなか、同盟強化、「敵基地攻撃能力」保有を目指し、9条の立場を投げ捨てるという宣言です。

岸田首相は「ウクライナ、コロナ、新しい資本主義、そして憲法改正」を挙げ、「大きな歴史的変化に立ち向かっていく、そのための力を得るたかひが来たる参院選だ」と語りました。目前に迫りつつある参院選は、日本の平和的進路、改憲の行方を左右する一大決戦となります。(若林明)

## 自民が党大会 岸田首相 夏の参院選勝利に向け結束を呼びかけ NHK2022年3月13日 12時02分



自民党の党大会が開かれ、岸田総理大臣は、ウクライナ情勢や新型コロナウイルスなど、歴史的な変化や課題に直面する中で、政権を担えるのは自民・公明両党以外にないと強調し、夏の参議院選挙の勝利に向けて結束を呼びかけました。

自民党の党大会は、13日午前、東京都内のホテルで開かれ、新型コロナウイルス対策のため、去年に続いて出席者を絞り込む形で行われました。

演説で、岸田総理大臣は、冒頭、ウクライナ情勢に触れ「この瞬間も、罪のない市民や将来ある子どもたちが尊い命を落としている。今回のロシアの暴挙はヨーロッパのみならずアジアを含む世界の秩序や平和に対する挑戦だ」と改めて強く非難しました。そして、日本の防衛力や日米同盟のさらなる強化に加え、国連改革の実現に全力をあげる考えを示しました。

また、原油や原材料などの価格高騰については「資源外交を積極的に展開し、エネルギーの種類や調達先などの多様化を進め、危機に強いエネルギー構造を実現させる。食材価格の抑制策を用意するとともに、価格上昇に苦しむ中小企業への支援を行う」と述べました。

さらに経済政策について「アベノミクスにより、もはやデフレではないという状況まで来ることができた。岸田政権ではアベノミクスの成果の上に立って、この流れをさらに確実なものとし、持続可能な日本経済を実現する」と述べ、賃上げや成長分野への投資に力を入れる考えを示しました。

一方、夏の参議院選挙について「ウクライナ情勢や新型コロナなど

ど大きな歴史的な変化に立ち向かっていくための『力』を得る戦いだ。これだけの国家的課題に直面する時、自民・公明の連立与党以外に、この国を任せることはできない。われわれがやるしかない」と強調し、勝利に向けて結束を呼びかけました。

また、公明党との関係については「いかなる事態が起きても国民生活を守り抜いていくためには政治の安定が不可欠だ。参議院選挙も自公の連携のもと勝利し、政治の安定を担っていく」と述べました。

さらに、憲法改正については「自民党が示す4項目の改正案はいずれも今こそ取り組まなければならない課題で、国民としっかり対話し、党是を成し遂げよう」と訴えました。

来賓として出席した公明党の山口代表は、今月10日の岸田総理大臣との党首会談を受けて、参議院選挙で自民党と互いに推薦を出し合う方向で合意したことを踏まえ「両党結束の土俵が整った。具体的な選挙区の状況を確認しながら、互いに結果の伴う歩みをしっかり進めていきたい」と述べました。

そして、党大会では、党幹部の任期制限について、岸田総理大臣が去年の総裁選挙で掲げた「1期1年3期まで」とする党則の改正に加え、憲法改正の実現に向けた取り組みを強化することなどを盛り込んだことしの運動方針を決定しました。

茂木幹事長「安定政権確立に向け結束確認」

自民党の茂木幹事長は記者団に対し「参議院選挙の必勝と安定政権の確立に向けた総決起大会というべき大会で、結束を確認できた。党則改正も正式に決定され、これを起爆剤として、さらに党改革をしっかり進め、自民党が進化している姿を国民に示していきたい」と述べました。

また公明党との関係について「ウクライナ問題をはじめ国難とも言うべき状況で、政権与党はさらに連携を深めていかなければならない。先週末のさまざまな協議で連携はしっかり確認できている」と述べました。

石破元幹事長「党内でかつたつに議論すべきだ」

自民党の石破元幹事長は記者団に対し「活気に満ちた党大会だった。参議院選挙は思わぬ敗北を喫する選挙区が必ずあるので、それぞれの選挙区の課題を点検し、取りこぼしのないようにしないといけない」と述べました。

また、岸田総理大臣の政権運営について「とり立てて失点がなく、謙虚な姿勢もあり、国民からの反発は少ないのではないかと。野党に期待できないところもあり、こういう時期だからこそ、党内でかつたつに議論すべきだ」と述べました。

## 岸田政権の真価 岸田首相 参院選必勝へ「団結」呼びかけ 憲法改正、党改革アピール

FNN2022年3月13日 日曜 午後1:30



岸田政権発足後初となる自民党党大会が13日都内で開かれ、岸田首相は夏の参議院選挙を「最大の政治決戦」と位置付け必勝を呼びかけた。党大会は政権運営の大きな節目。参院選に向けた態

勢固めを急ぐ狙いがある。

岸田首相は約 20 分間の演説で、参院選について「自民、公明両党の連携のもとで勝利し、引き続き政治の安定を担う」「自民・公明の連立与党以外にこの国を任せられることができるだろうか。できるわけがない。我々がやるしかない」と強調した。また「参院選は時として大きな政治変革の引き金ともなってきた」「一致団結しまなじりを決して戦い抜く。私自身がその先頭に立つ」と訴えた。

党大会には、公明党の山口代表も出席して挨拶し、「協力の在り方をしっかりと間を詰めて、実のある体制を作らなければならない。そのためにも、二幹二選（※自公両党の幹事長、選挙対策委員長会談）の役割が重要だ。あらゆる選挙区の状況を確認しながら、結果の伴う歩みを進める」と述べ、選挙協力を具体的に進める方針を強調した。選挙協力を巡って取り沙汰された自公の「隙間」の修復をトップ同士がはかった形だ。



挨拶をする公明党・山口代表

一方、岸田首相はロシアのウクライナ侵攻について、「力による一方的な現状変更によって、主権と領土の一体性を犯すロシアの暴挙を強く非難する。我が国は国際社会とともにロシアに強い制裁を科すことでこうした暴挙に高い代償が伴うことを示す」と強調し、国連や安保理改革を目指す決意を表明した。

新型コロナウイルス対策については、「感染防止対策を徹底しながら出口に向けて動きを進める」「経済、社会を動かすことで日常を取り戻すことができるよう歩みを進める。その先に日本経済の回復を描く」と説明した。憲法改正については、「一人一人が国民の皆さんとしっかり対話し、憲法改正という党是を成し遂げようではないか」と協力を要請した。

党大会では、幹事長などの役員任期を 1 期 1 年、連続 3 期までに制限する党則改正や立憲民主党などの支持団体である連合との協調を拡大する方針も正式決定した。

党大会を通して、岸田首相がロシアによるウクライナ侵攻、新型コロナ対策などの重要課題に立ち向かう決意とともに、2021 年の総裁選で公約として掲げた党改革実現をアピールした形だ。



ただ、課題も多い。岸田首相が掲げる看板政策「新しい資本主義」をめぐるのは、政権発足から 5 カ月がたった今、党執行部、閣内からですら「全体像がよくわからない」との声があがる。新型コロナ対策やウクライナ侵攻では、対応の遅れも指摘された。党内に目を向ければ、水面下で非主流派の不満がくすぶり、麻生派から佐藤勉前総務会長ら 4 人が退会。勢力結集を目指す菅前首相の動きにも注目が集まる。これらの課題を乗り越え、長期政権の試金石となる参院選を勝利に導くことができるのか、岸田首相の手腕が問われる。

## 【深掘り】自民「沖縄重視」前面に 琉球ガラス贈呈に空手演舞 …新人の参院候補も登壇した党大会

琉球新報 2022/03/13 20:00



【東京】琉球ガラスの贈呈に、金メダリストの空手演舞。沖縄関係の会合かと思いきや、13 日に都内で開かれた自民党大会の一場面だ。党本部は 22 年度の運動方針で、沖縄の日本復帰 50 年に触れながら、重点政策に「新たな沖縄振興の推進」を盛り込み、夏の参院選での勝利を目指す方針を採択した。大会では、司会進行も沖縄出身議員が担当したほか、党の功労者に琉球ガラスの贈呈、金メダリスト喜友名諒選手も空手演舞を披露するなど「沖縄色」を前面に打ち出した。9 月の任期満了を迎える県知事選を天王山とする「選挙イヤー」を意識した格好だ。党大会の様子はこちら>>自民、参院選の勝利目指す 「新たな沖縄振興」重点政策に

この日は、自民党が参院選沖縄選挙区の公認候補とした県出身で元総務官僚の古謝玄太氏（38）も登壇し、公認証の交付を受けた。古謝氏は琉球新報の取材に、「復帰 50 年の節目となる重要な年だと実感した。改めて身が引き締まる思いだ」と間近に迫る選挙戦への緊張感をにじませた。

古謝氏によると、西銘恒三郎沖縄担当相から参院選の打診を受けたのは、2 月中旬ごろ。家族らと相談し、約 2 週間悩んだ末に「いい機会だ」と出馬を決めた。12 日には、自民党本部で茂木敏充幹事長とも面会し、激励を受けた。

東大卒業後に入省した総務省では「地域活性化」のための政策立案などを担当。民間企業に転じてから内閣府の振興策の一環として行われた起業家支援事業にも携わった。「いずれ沖縄に帰ってそれまでの経験を還元したいという思いがあった」と振り返り、「まずは県民の皆様顔に顔を知ってもらうことが重要だ」と表情を引き締めた。

党大会は、進行役を県出身の比嘉奈津美参院議員が務め、党勢拡大の功労者に琉球ガラスの工芸品が贈られた。2021 年東京五輪空手男子形金メダリストの喜友名諒選手が登壇し、演舞を披露するなど、「沖縄色」を前面に出す構成となった。「大会の構成には幹事長の意向が反映される」（県選出与党議員）とされ、「選挙イヤー」とも重なる復帰 50 年の節目で、「沖縄重視」を強調する狙いもうかがえた。（安里洋輔）

## 自公、急転直下の「相互推薦」 党大会目前、あつれき回避

時事通信 2022 年 03 月 12 日 11 時 36 分



会談に臨む（左から）公明党の高木陽介選対委員長、石井啓一幹事長、自民党の茂木敏充幹事長、遠藤利明選対委員長＝11 日午後、国会内

夏の参院選が約 4 カ月後に迫る中、自民、公明両党が事実上の相互推薦を行う方針で一致した。13 日の自民党大会を目前にした急転直下の合意は、自公の「隙間」（岸田文雄首相）を早急に

埋め、結束をアピールする狙いがある。

「ここから一気呵成(かせい)に協力を進めていければと思う」。自民党の茂木敏充幹事長は11日、公明党の石井啓一幹事長との協議後、記者団に強調。石井氏も「隙間風(が吹いた)と受け止められた局面もあったが、雨降って地固まるということで協力が固まっていけばいい」と語った。

相互推薦は2016年と19年の過去2回の参院選で実施。公明は今回も独自候補を立てる兵庫など五つの複数改選区で、昨年未までの合意を求めたが、自民が応じなかった。公明は今年になって相互推薦を行わない方針を一方的に通告し、両党のあつれきがあらわとなった。

ただ、公明の山口那津男代表が来賓として出席する自民党大会をぎくしゃくした状態で迎えるのはまずいと判断。首相の呼び掛けでセットされた山口氏との10日の会談で「選挙協力強化」で一致すると、翌日の幹事長・選対委員長会談で一気に合意。スピード決着を演出した。

これまでの相互推薦と違うのは、公明が「自民候補を全員推薦するのは難しい」(関係者)としていることだ。各選挙区で自民側の「協力度」を勘案して判断するとしており、「値踏み」と言える。それでも自民幹部は「相互推薦には変わらない」と強調した。

相互推薦の最大の焦点は兵庫選挙区(改選数3)だ。16年は自民がトップ当選したものの、19年は公明が2位となり自民は最下位当選。自民の得票は16年と比べ約17万票も減り、「公明候補を推薦したことが影響した」と自民に不満が広がった。激戦が予想される選挙区で自公がどう協力し合うかが課題となる。

一方、国民民主党が岸田政権に急接近したことが、今回の自公合意を促したとの見方もある。自民からすれば国民民主との連携は公明へのけん制となる。自民幹部は公明の歩み寄りを「狙い通り」と語るが、自公間の懸案はまだある。

ガソリン税を一時的に引き下げる「トリガー条項」凍結解除の是非をめぐるのは、国民民主が解除を求め、公明も同調した。ただ、政府・自民内には慎重論が根強く、自公はトリガー条項の扱いの調整を急ぐ。

## 玉木氏、自民の運動方針を評価 「賃上げ実現しやすく」

日経新聞 2022年3月13日 15:16

国民民主党の玉木雄一郎代表は13日、福岡市で記者会見し、自民党の2022年運動方針に連合との政策懇談を通じて労働政策をアピールするとの項目が盛り込まれたことを評価した。「賃上げの必要性について自民側に理解が広がるのは良いことだ。われわれの政策が実現しやすい環境になった」と述べた。

一部労組の取り込みや参院選で野党分断を図る狙いが自民側にあるとの見方に関し「野党側が民間労組や労働者に対し、自民以上に魅力的な政策を示せていないことが問題だ」と指摘。参院選に向け「政策を訴え、支援労組との関係を、より強固にする」と強調した。

公明党の山口那津男代表がガソリン税の一部を減税する「トリガー条項」凍結解除をすべきだと主張したことについては「国民民主の考えと軌を一にする発言で、大変心強い」と語った。[共同]